

詩編 125篇

分類：信賴詩篇 団体的

[概 説]

エルサレムが山に囲まれて内外の誘惑や敵から守られているように、神の民も神の確かな防護壁によって守られ保持されるという確信の歌。

状況としては、ネヘミヤによる城壁修復工事完了後が考えられるという。ネヘミヤ記6章以下参照。

【表題】

- 岩波 神の民を異国の支配による悪への誘惑から守るように祈る、教訓的な信賴の歌。かなり後期の作品。
- 新改 神に信賴する人の平安。

▼ 1-3 節 主ヤハウエに信賴する者の安全の確信。彼らを堅固なシオンの山になぞらえ、彼らが主の民として永遠に守られることを宣言する。

1 節

- 口語 都もうでの歌 主に信賴する者は、動かされることなく、とこしえにあるシオンの山のようなものである。
- 新改 都上りの歌 主に信賴する人々はシオンの山のような。ゆるぐことなく、とこしえにながらえる。
- 2017 都上りの歌 主に信賴する人々はシオンの山のような。揺るぐことなくとこしえにながらえる。
- LB 神様を信賴する人は、シオンの山のように、どのような状況の変化にも動じないのです。
- 現代 都上りの歌 主に信賴する人々は、シオン山のような。揺らぐこと

なく、永遠に確かである。

- フラ 上京の歌。主に寄り頼む者はシオンの山のように揺るぐことなく、とこしえに立つ。
- バル 上京のうた 主によりたのむ者は、ゆるがざるシオンの山のごとく、永遠に立つ。
- 岩波 宮詣での詩。ヤハウエに抛り頼む者はシオンの山のように、揺るがされず、とこしえにとどまる。
- 月本 巡礼歌。ヤハウエに信頼する者たちはシオンの山のように、揺るがされることはなく、永遠に人が住まう。
- 関根 都もうでの歌。ヤハウエに信頼する者はゆるがず、とこしえに立つシオンの山のように。
- 牧野 巡礼歌 主に信頼する人々はシオン山のように揺るぎなく永遠に坐す。
- 共同 都に上る歌。主に信頼する人はシオンの山のように揺らぐことなく、とこしえにとどまる。
- 新共 都に上る歌。主に依り頼む人は、シオンの山。揺らぐことなく、とこしえに座る。

1 節

【主に依り頼む人はシオンの山】LB参照しまず大意を確認したい。「シオン」はエルサレム、エルサレム神殿のこと。「山」は不動の象徴。主によって建てられ、堅固なことが言われているが、そこに「依り頼む人」「信頼する人」「寄り頼む者」は揺らぐことがない、ということ。

新改「主に信頼する人々」他、訳語比較のこと。「シオンの山」のように動かない。詩編 16:8、46:3-5、112:6 参照。箴言にも主に信頼する者たちの幸いが繰り返される。箴言 16:20、28:25、29:25 参照。

◆詩編16:8以下 8 わたしは絶えず主に相対しています。主は右にいまし／わたしは揺らぐことはありません。9 わたしの心は喜び、魂は躍ります。か

らだは安心して憩います。10 あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなく／あなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず 11 命の道を教えてくださいます。わたしは御顔を仰いで満ち足り、喜び祝い／右の御手から永遠の喜びをいただきます。

◆詩編46:3-5 3 わたしたちは決して恐れない／地が姿を変え／山々が揺らいで海の中に移るとも4 海の水が騒ぎ、沸き返り／その高ぶるさまに山々が震えるとも。5 大河とその流れは、神の都に喜びを与える／いと高き神のいます聖所に。

◆詩編112:6-8 6 主に従う人はとこしえに揺らぐことがない。彼はとこしえに記憶される。7 彼は悪評を立てられても恐れない。その心は、固く主に信頼している。8 彼の心は堅固で恐れることなく／ついに彼は敵を支配する。

◆箴言16:20 何事にも目覚めている人は恵みを得る。主に依り頼むことが彼の幸い。

◆箴言28:25 貪欲な者はいさかいを引き起こす。主に依り頼む人は潤される。

◆箴言29:25 人は恐怖の罨にかかる。主を信頼する者は高い所に置かれる。

【とこしえに座る】「座る」ヤーシャブは、人が「住む」の意味と月本。

2 節

●口語 山々がエルサレムを囲んでいるように、主は今からとこしえにその民を囲まれる。

●新改 山々がエルサレムを取り囲むように、主は御民を今よりとこしえまでも囲まれる。

●2017 エルサレムを山々が取り囲んでいるように主は御民を今よりとこしえまでも囲まれる。

●LB エルサレムがその周囲の山々に守られているように、主もご自分の国民を取り囲んで、守ってくださいます。

●現代 山がエルサレムを囲んでいるように、主はその民を、今から永遠に守られる。

- フラ 山々がエルサレムを取り囲むように、主は、その民を囲まれる、今からとこしえに。
- バル イエルザレム、山々はそれを囲む、主がみ民を囲まれるように。今も世々に。
- 岩波 エルサレムは山々が囲み ヤハウエはかれの民を囲む、いまより とこしえまで。
- 月本 エルサレム、これを山々が取り囲むように、ヤハウエはその民を囲まれる、今より永遠まで。
- 関根 エルサレムは山々これを囲む。ヤハヴェはその民を囲まれる、今よりとこしえにいたるまで。
- 牧野 エルサレム 山々は彼女を囲み 主は御自分の民を囲む 今から永遠まで。
- 共同 エルサレムを山々が囲み 主はその民を囲んでおられる。今より、とこしえに。
- 新共 山々はエルサレムを囲み 主は御自分の民を囲んでいてくださる 今も、そしてとこしえに。

2 節

1 節を受けて、シオンの山の確かさ、エルサレムの町の堅固さの理由が説明される。

【主は御自分の民を囲んでいてくださる】山々がエルサレムを囲んで守るように、ヤハウエは民を「信頼する民」を守る。そして、その守りは「とこしえ」「永遠」であると歌う。「囲む」は通常敵の軍隊を指す語。しかし、ここでは、神ヤハウエによるイスラエルの加護を比喩的に表現する。

実際、エルサレムは東にオリーブ山、南にヒノムの谷、西に斜面、北はオリーブ山の続きで囲まれている。そのように、主に信頼する者もあらゆる危険から安全に守られている。エルサレムの城壁の修復が更にこの確信を強くする。

3 節

- 口語 これは悪しき者のつえが 正しい者の所領にとどまることなく、正しい者がその手を 不義に伸べることのないためである。
- 新改 悪の杖が正しい者の地所の上にとどまることなく、正しい者が不正なことに、手を伸ばさないためである。
- 2017 それは悪の杖が正しい人の割り当て地の上にとどまることがなく正しい人が不正なことに手を伸ばさないようにするためだ。
- LB 主に従っている人々を悪者どもが支配し、悪を押しつけることがあってはならないからです。
- 現代 これは、悪人が正しい人を支配することなく、正しい人が悪を行わないためである。
- フラ 悪い者の笏が正しい者の領地に留まることはない、正しい者がその手を悪に伸べないように。
- バル 正しい者の分け前に、悪人の笏がとどまらない、正しい者が、手を、悪にのべないように。
- 岩波 まことに、不法の笏は義人たちの籤（くじ）に留まらない、義人たちが手を不正に差し入れないために。
- 月本 じつに、邪悪の笏杖が義人たちの籤のうえに安住することはない。それゆえ、義人たちが不正の業にその手を染めることもない。
- 関根 げに不虔（ふけん）なる者の杖は義しき者の嗣業の上におかれず、義しき者がその手をのばして不法を行なうことのないために。
- 牧野 まことに、邪悪の笏は義人たちの領域に留まらない 義人たちが不正に手を出さないよう。
- 共同 悪人どもの笏が正しき人々の割り当て地に とどまることなく 正しき人が不正に手を伸ばすことがないために。
- 新共 主に従う人に割り当てられた地に 主に逆らう者の笏が置かれることのないように。主に従う人が悪に手を伸ばすことのないように。

3 節

L B、現代訳は簡潔にしているので大変わかりやすい訳。エルサレムの防護と安全の目的を述べるが、正しい者に幸いを与え、曲がった道を進む者たちが、悪事をはたらく者たちと共に滅びへと至ることを願う。

石川は「未来のヴィジョンが述べられる。」とし、「将来の預言」とする。今イスラエルは外国人の支配下にあるが、いずれは支配から解放される時が来る。

【主に逆らう者の笏】異邦の民による抑圧的な支配を象徴するもの。「邪悪の笏杖」「不法の笏」などの訳。

【主に従う人に割り当てられた地】「正しい者の地所」（新改）とは、神の民に主が嗣業として分け与えて下さったカナン土地のこと。「主に従う者」は他の翻訳をみてわかるように、「義人」のこと。原語はツァディーク。主に信頼する者たちは義人であり、彼らの上に悪しき支配（逆らう者の笏）が及ぶことはない。

「地」とは「籤・くじ」（岩波・月本）の意であるが、正直な所、この箇所の意味を取るのに、この語をまともに訳すのは難しいと思う。ヨシュア記 13:1 以下にカナン土地に於いて割り振られた嗣業が綿々と記される。月本は「義人たちの籤」とは、イスラエルの民の運命と解説。

◆ヨシュア記 13:1 以下 1 ヨシュアが多くの日を重ねて老人となったとき、主は彼にこう言われた。「あなたは年を重ねて、老人となったが、占領すべき土地はまだたくさん残っている。2 残っている土地は次のとおりである。ペリシテ人の全地域とゲシュル人の全域、……

【割り当てられた地に】ヤハウエ＝主によって正義の実現のためにイスラエルの民に与えられた地。

【主に逆らう者の笏が置かれることのないように】

ここでの「支配者」は外国人支配者であると石川は言い切る。

新改訳の「悪の杖」とは、異邦の力による支配あるいは国内の

不信仰者による支配のこと。「杖」「笏」は支配のしるし・象徴である。イザヤ書 14:5。

主に逆らう悪しき者たちの支配下で、この詩編を歌う詩人（たち）の同士である「義人＝主に従う人」の中に脱落者が出ないように、と祈っている。

◆イザヤ書 14:5 主は、逆らう者の杖と／支配者の鞭を折られた。

▼4-5 節 祈り

1-2 節では、主に信頼する民をシオンになぞらえ、外敵から守られることを宣言していた。3 節でも主による（イスラエルの）民の加護を断定的に歌っていた。しかしここでは、懇願へと転換する。

4-5 節では、彼ら自身の間でも、主が義しい者たちに恵みを施し、悪を行う者たちを滅びへと至らしめるようにと懇願するのである。

4 節

- 口語 主よ、善良な人と、心の正しい人とに、さいわいを施してください。
- 新改 主よ。善良な人々や心の直ぐな人々に、いつくしみを施してください。
- 2017 主よ善良な人々や心の直ぐな人々にいつくしみを施してください。
- LB ああ神様、心のまっすぐな正しい人々を恵んでください。
- 現代 主よ、善良な人々や心のまっすぐな人々に、幸いを施してください。
- フラ 主よ、善良な者と心のまっすぐな者にと恵みを与えてください。
- バル 主よ、よい人々に、心の正しい人々に、善を与えよ。
- 岩波 善くして下さい、ヤハウエ、善き者たちに、心の直き者たちに。
- 月本 恵みをほどこしてください、ヤハウエ、善人たちに、心のまっすぐな者たちに。
- 関根 ヤハヴェよ、よきを行なう者、心直き者によきことを与えたまえ。
- 牧野 善いことをしてください、主よ、善い人々に 心の真直ぐな人々に。

- 共同 主よ、よい人々、心のまっすぐな人々に 幸いをもたらしてください。
- 新共 主よ、良い人、心のまっすぐな人を幸せにしてください。

4 節

5 節の「悪を行う者」とは対照的な「良い人、心のまっすぐな人」に幸いがあるようにと祈る。コヘレトの言葉 3:16-17 参照。

◆コヘレトの言葉 3:16以下 太陽の下、更にわたしは見た。裁きの座に悪が、正義の座に悪があるのを。17 わたしはこうつぶやいた。正義を行う人も悪人も神は裁かれる。すべての出来事、すべての行為には、定められた時がある。

【良い人】【心のまっすぐな人】も不正や迫害の中で悪の誘惑に陥りやすくなるので、主の守りが求められ、慈しみが祈られる。彼らはイスラエルの民のこと。

5 節

- 口語 しかし転じて自分の曲った道に入る者を／主は、悪を行う者と共に去らせられる。イスラエルの上に平安があるように。
- 新改 しかし、主は、曲がった道にそれる者どもを不法を行なう者どもとともに、連れ去られよう。イスラエルの上に平和があるように。
- 2017 主は曲がった道にそれる者どもを不法を行う者どもとともに追い出される。イスラエルの上に平和があるように。
- LB そして、悪者どもは、処刑場へ連れ去ってください。イスラエルに平和がありますように。
- 現代 主は曲がった道にそれる者たちを、悪を行う者たちと共に追い払われる。イスラエルの上に平和があるように。
- フラ 主は、曲がった道にそれる者を、悪を行う者とともに歩み去らせる。イスラエルに平和。
- バル だが、曲がった道にそれる者を、悪をする者と共に、主がさらせるように。イスラエルに平安！
- 岩波 しかしおのが曲がった道を行く者らはヤハウエが行かせますよう

に、悪事をなす者らと共に。平安、イスラエルの上に。

- 月本 おのれの曲がった道を進む者たち、彼らをヤハウエが去らせられるように、悪事をはたらく者たちもろともに。イスラエルのうえに平和があれ。
- 関根 しかしおのれの曲がった道に向かう者、彼らをヤハヴェが悪を行なう者とともに過ぎ去らせ給うように！安きがイスラエルに上にあれ！
- 牧野 自らの邪曲（正しくなく、ねじけていること）を広める者たちを去らせてください、主よ、不法を働く者たちを。平和よ、イスラエルに。
- 共同 しかし、曲がった道にそれる者らは悪事を働く者らと共に主が去らせてくださるように。イスラエルの上に平和があるように。
- 新共 よこしまな自分の道にそれて行く者を主よ、悪を行う者と共に追い払ってください。イスラエルの上に平和がありますように。

5 節

エルサレムの中の不信仰者や背信者に対するさばきの祈り。詩編 122:6-9、ガラテヤの信徒への手紙 6:16。

【イスラエルの上に平和がありますように】最後の一句は、平和を祈り求める言葉が置かれる。巡礼の歌を編集した人が加えた言葉だと言われるが、そんなことは気にしなくてよい。

対立のやまない、破れ口が露わになっている世に於いて、平和を祈り求める行動へと私たちは促され、目を開かれる。復活の主イエス・キリストが進んで行く道が見える信仰を自分たちのものになりたい。

◆詩編122:6-9 6 エルサレムの平和を求めよう。「あなたを愛する人々に平安があるように。7 あなたの城壁のうちに平和があるように。あなたの城郭のうちに平安があるように。」8 わたしは言おう、わたしの兄弟、友のために。「あなたのうちに平和があるように。」9 わたしは願おう／わたしたちの神、主の家のために。「あなたに幸いがあるように。」

◆ガラテヤの信徒への手紙6:16 このような原理に従って生きていく人の上

に、つまり、神のイスラエルの上に平和と憐れみがあるように。

終わりに

125篇は、困難逆境の中で、よくそれに堪えうる最善の道は、神に信頼することであるという確信を歌っている。正しい者が悪しき者のゆえに苦しめられ悩まされていることを述べるが、それが歴史的にどの次代の事件を指したものは特定出来ない。

125篇は巡礼者の歌である。この詩を通して、自分たちが主に信頼する民であること。また、「義人」であり「善人」として、真っ直ぐな道を歩まなければならないことを確認させられたであろう。

けれども、私たちは、いつも「義人」「善人」であることがどれほど出来るだろうか。124篇でも学んだが、私たちは自分の罪に絶望するしかない。

パウロが記した、ローマの信徒への手紙 7章24節を思い起こそう。

7:24 わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるのでしょうか。

しかし、主イエスは、ご自分のすべてを捧げ、極みまで愛し抜かれるのである。旧新約聖書を一貫して流れる神の愛を心に刻みたい。

エレミヤ書31章31節以下を読みたい。

31:31 見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。

31:32 この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取っ

てエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。

31:33 しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

31:34 そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない。

月本は言う 森補筆

エルサレムは自然の要塞であった。町の東端と西端を深い谷(キドロンの谷とヒムノムの谷)が走る。そして、エルサレムの町の南端で合流する。

さらには、東にオリーブ山、北にはスコポスの山がそびえ、西にも丘が広がる。いずれも神殿の丘よりも高い。だからと言って、エルサレムは決して揺るがない都ではなかった。

特に、ネブカドネツアル率いるバビロニア軍はエルサレムを包囲し、列王記25:1-3・エレミヤ書52:4-6に依れば、彼らは一年二ヵ月(エレミヤ書は一年半)を要したが、最終的にエルサレムを陥落させたのである。エレミヤ書に続く哀歌は、こうして陥落し、略奪されたシオンをヤハウエに見捨てられた都として嘆く歌である。

エルサレムは、歴史上、実は陥落をくり返したのである。

にもかかわらず、エルサレム = シオンは、揺るがされないことのない、永遠の都であるかのように詠われる。ここには、詩編46篇

や48篇にみられるような理想化されたエルサレム観が控えている。

実は、この都、そして民は、ヤハウエに信頼する限り、今より永遠まで、ヤハウエの加護の中に生かされるのである。そして、ヤハウエに信頼する者たちを、ヤハウエの民と呼び、義人たち、善人達、心のまっすぐな者と言い換えて行く。

ヤハウエを信頼する者たちは、言うまでもなく、旧約時代の神信仰を表す典型的な表現なのである。

預言者イザヤは、イスラエルの民に対して、神ヤハウエへの信頼を勧告した。アラムの王と北イスラエルの同盟軍による攻撃を前にしても、イザヤは民に動揺を戒め、ヤハウエへの信頼こそが真の力である、と勝った。イザヤ書30:15参照。

◆イザヤ書30:15 まことに、イスラエルの聖なる方／わが主なる神は、こう言われた。「お前たちは、立ち帰って／静かにしているならば救われる。安らかに信頼していることにこそ力がある」と。しかし、お前たちはそれを望まなかった。

マタイ福音書14:22以下で、「なぜ疑ったのか」と言われる。イエスはヨハネ福音書20章24節以下で、弟子たちに対して「信じる者になりなさい」と言われる。

私たちは、イエス・キリストを主と信じる生き方を、改めて始めるように促されているのである。

以上

※旭東教会の『詩編』の学び、最後となりました。心より感謝。もり